

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 守恒 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

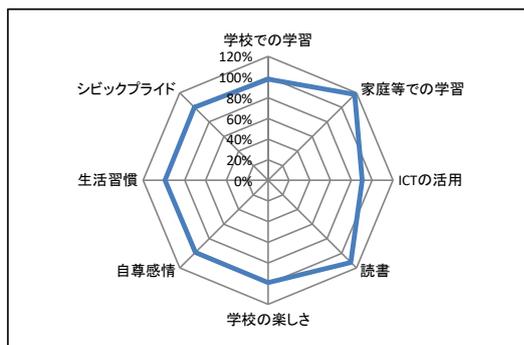
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	漢字及び資料から情報を見つける問題を除き、全ての問題で全国平均正答率を上回っている。しかし、無回答率が、思考・判断・表現力が必要な問題で全国平均に比べて高くなっていることは、課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの問題で全国平均正答率を上回っている。下回っている問題は、全て知識・技能を必要とする問題である。無回答率は、全国平均に比べて低いが、やはり、知識・技能を必要とする問題であることから、基礎基本をしっかりと習得させることが必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかをみる問題	
	努力が必要な問題	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えることができるかどうかをみる問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの問題で全国平均正答率を上回っている。特に下回っている問題は、思考・判断・表現力が必要な問題であることと、全問題中3割の問題で、無回答率が全校平均と比べて高いことが課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	赤玉玉の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉玉の量と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現することができるかをみる問題。	
	努力が必要な問題	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかをみる問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしているか」という問いに対して、1時間以上勉強している児童の割合が50%を超えており、全国平均と比べても著しく高い結果となっている。これは、目標達成のために、主体的に学習計画を立てて実行し、評価修正するという自律した学習者を育てる取組を行ってきた成果だと考える。 ・学校及び家庭における勉強におけるICTの活用が全国平均に比べて低い結果となった。そのことを受け、9月より「ロイロノート」を導入し、ICTの活用が授業の中で効果的な場面では、積極的に使用する環境を整えた。また、「個別最適な学び」の一つとしてAIドリルを導入し、家庭での使用も積極的に行えるよう、各学年に応じて（中学年以上は毎日）タブレットの家庭への持ち帰りを行っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 「自律した学習者の育成」…計画→テスト→分析→練習の考え方を活用し、子ども自ら学び方を調整しながら進めていく学習法
- 「子ども同士の学び合い」…主体的・対話的な学び実現のための、子ども達の協働的な学びの推進
- 「職員研修の取組」…月1回の学力向上推進委員会での取組に対するPDCA及び授業研究会の定期的な実施による授業力の向上

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学校だより（保健だより・給食だより含む）、学年だより、学級だより等で子ども達の様子を発信する。
- 学年に応じた家庭学習への取組について担当が把握し、校内に掲示するなどする。